



第33号
 発行者
 いしづち森林組合
 TEL 0897-56-0180
 FAX 0897-56-8818

組合員数 2,571人
 出資金 276,641,000円
 令和6年5月31日現在

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます



組合員の皆様におかれましては、ご健勝でよき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より当組合に対し格別のご理解、ご支援ご協力を賜り役員一同御礼申し上げます。

さて、昨年は当組合の役員改選があり、私も3期目の代表理事組合長に役員会で推挙され、信任を受けて重責をスタートさせて頂いたまま、初心に返り、組合員の森林が持続可能となるよう組織の体制を整え、ご期待に添いたいと思っております。

昨年は、元旦の能登半島地震に端を発し世界各地で地震・豪雨・台風・干害等災害が発生し、尊い命が失われたり被害を受けた方がいます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

我々森林林業に携わる者として、災害が発生するたびに、森林整備をすることで地球環境を良くし、森林の持つ公益的機能が発揮され少しくもリスクを減らしたいとの思いを強くします。

令和6年の「今年の漢字」に「金」が選ばれました。明るくなるパリ五輪の金メダルラッシュや暗くなる裏金問題等があります。またアメリカ大リーグでは大谷選手との結婚や50-50、50本塁打・50盗塁を達成し前人未到の大記録が達成される喜ばしい話題もありました。

林業界では、春先から森林環境税の徴収が開始されました。本格稼働されて今後の国・県・市町村による取り組みが期待される所です。我々としては、この税は永年続きますので、森林林業関係者の意見も反映させた使途とし、時代に即した内容としてもらいたいと願うばかりです。木材価格については、代り映えない結果となりました。もっと商品価値を理解していただき、木材価格が上昇してもらいたいと思っております。

さて、当組合及び林業界の昨年の動き及び今年の予定については次の通りです。

中間決算の状況

- 一 事業進捗及び経営状況
 - 基本、資源循環型の施策を目指し、各種事業を展開しています。事業はほぼ計画どおり達成出来ております。
 - 経営は安定して、昨年実績を、若干上回っています。
 - 後半に向けても安定経営を目指し頑張っています。
 - 事業関係では、作業の効率化と精度向上のためICT等の導入を徐々に進めています。
- 二 人材の確保・育成状況

三

普通職員(技術系)については、昨年11月に1名、中途採用しました。技能職員の今春の採用者は残念ながら今のところゼロとなっております。

人材の確保・育成が難しい時代ですが、今後も中途採用を含めいろいろな機関へ情報(当組合の魅力)を発信し確保するべく実施していきます。もし、組合員さんのお知り合いに林業に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご紹介等お願いいたします。技能職員(現場)の採用は年中実施しております。

労働災害等
 半期が経過しましたが、今のところゼロ災害です。今後についても引き続き労働災害に対しあらゆる対策を講じてまいります。

全国森林組合代表者大会について

森林組合系統では、昨年10月中旬に東京都内で開催された全国森林組合代表者大会において、令和7年度林業政策・予算に関する要望が決議された概要を説明します。

戦後造林した人工林は本格的な利用期を迎えているが、主伐・再造林の循環利用は未だ確立されたものとなっていない。また、国民のおよそ4割と言われるスギ花粉症にも対処していく必要がある。更に、間伐等の適切な森林整備が行われていない箇所も数多くみられ、カーボンニュートラルの実現に資する地球温暖化防止、国土保全など森林の有する大切な多くの機能発揮に一層取り組む必要がある。さらに、能登半島地震を始めとして近年の集中豪雨や地震等の度重なる災害により、大規模な山崩壊、林道等の寸断に伴う集落の孤立、風倒木によるインフラ・ライフラインへの二次的被害等が発生していることを踏まえ、災害に強い健全な森林づくりによる「緑の国土強靭化」を一層強力に推進していかねばならない。

一方、新型コロナウイルス感染症やウクライナ・中東情勢は世界各國の経済政策や活動に強い影響を及ぼし、外材の需給・流通の国際的変動により、木材需要の不透明さが増している中、経済安全保障の観点からも、海外市場の影響を受けにくい需給構造とすることが急務となっている。

このため、国産材のシェア拡大及び持続的かつ安定的な供給体制の構築を目指し、豊かな森林資源を活用して国産材生産サイクルを活性化させ、林業経営・林業従事者の所得向上など、山村地域を活性化させる森林・林業・木材産業によるグリーン成長を実現していくことが不可欠である。

我々、森林組合系統は、これまでの諸制度の改正や森林・林業基本計画の見直し等を踏まえ、一昨年の全国森林組合大会において、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けて、新たな系統運動方針「Forest+ビジョン2030」を策定したところである。

引き続き全国150万人の組合員と一体となり、森林の公益的機能の確保と地方創生が推進されるよう、関係団体と緊密に連携し、「林業のグリーン成長」による森林資源の循環利用と適切な管理の推進、人材の確保・育成と林業労働安全、国産材利用促進、山村振興等に向け、森林・林業の諸課題に取り組む決意である。

- 1 カーボンニュートラル・国土強靭化に向けた森林整備・保全と適切な管理の推進
- 2 人材の確保・育成と労働安全対策推進強化
- 3 生産性向上と需要拡大による国産材の供給・利用促進等
- 4 能登半島地震や大雨災害など激甚な災害からの復旧・復興
- 5 林業及び山村振興等に必要となる林業税制の改正

中間決算報告について

1. 貸借対照表 令和6年11月30日現在 (単位: 円)

科目	借方	科目	貸方
流動資産	723,154,045	流動負債	147,887,183
固定資産	177,449,170	固定負債	18,905,167
外部出資	55,592,000	出資金	276,692,000
長期貸付金	0	剰余金積立金	494,549,013
その他資産	94,287	当期末処分剰余金	18,256,139
計	956,289,502	計	956,289,502

2. 損益計算書 令和6年6月1日現在～令和6年11月30日(単位: 円)

区分	費用	収益	損益
部門別損益			
指導	100,000	100,000	0
販売	13,047,643	15,634,810	2,587,167
森林整備	35,720,116	83,747,012	48,026,896
森林経営事業	0	0	0
事業総利益			50,614,063
事業管理費			46,673,968
事業利益			3,940,095
事業外損益			956,214
経常利益			4,896,309
特別損益			△4
税引前当期純利益			4,896,305
前期繰越剰余金			13,359,834
当期末処分剰余金			18,256,139

令和7年度国の概算予算状況
 令和6年当初予算よりも115.8%となっており、予算は増えていきます。

主な施策の内容は大きく分けて次のとおりです。

- ☆カーボンニュートラルの実現・花粉症解決に向けた森林・林業・木材産業総合対策
- ① 森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策
- ② 花粉症解決に向けた総合対策
- ③ 森林整備事業「公共」
- ④ 治山事業「公共」
- ⑤ 農山漁村地域整備交付金「公共」

☆鳥獣被害防止対策

その他
 組合員の後継者不足など深刻さを増していますが、組合は組合員あつての組合です。どうか後継者の確保にご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後に組合員各位のご健勝ご多幸をお祈りし年頭のご挨拶といたします。

代表理事組合長 伊藤 康雄

